



2024

11

第414号

真宗大谷派京都教区 教化広報誌

教区だより

今、この時に、
親鸞聖人に会う

名古屋教区 いぬかい ゆみこ 犬飼 祐三子 氏 長浜 かわなべ りゅうし 第24組 川那部 龍司 氏

特集

共学研修院

レポート

夏の御文

今、この時に、

親鸞聖人に会う



坊守って何なのか

名古屋教区 正林寺

解放運動推進本部スタッフ

犬飼 祐三子



私たちの世界に「絶対的平等」は成り立つのでしょうか。

今でもよく思い出す出来事があります。私は二人姉妹の長女で、お寺の養子娘（候補衆徒として連れ合いに養子に入ってもらった跡取り娘）として育ちました。連れ合いとお見合いし結婚したのは私が23歳の時でした。

お寺に入ってもらい、しばらく経った

頃、自分の実家のお寺と違うことや思い通りにいかないことなどが重なり、連れ合いと私の両親との間で口論になったことがありました。連れ合いの実家のお寺は名古屋別院の近くにある、いわゆる街の中のお寺で、考え方も合理的なところがありました。片や自坊は名古屋でも西の端に位置しているところがあり、古い慣習がまだまだ残っていて合理的なことを行うのは難しい地域でした。両親もそのように説明したのですが「そんなことは関係ない」と激昂する連れ合い、その様を見て「この辺りはまだ田舎だから」と言った私に対し「何も知らないくせに口を出すな!」という言葉が返ってきました。その言葉を聞いて悔しくて悲しくて、一人になれる場所に駆け込み思い切り泣きました。「何も知らないくせに……」この言葉が心に刺さり、自分の無力さを痛感した瞬間でした。

人は、何気なく言葉を発します。その言葉が時にどのように相手を傷つけるかを考えることもなく……

連れ合いの中では、「自分は次期住職で法務をしているから偉い。対してお前はお寺にいて大したこともしないだろう」という意識だったのでしよう。坊守って何なのか。そんな問いが生まれた

のはこの時だったような気がします。そして真宗の教えを学びたいという気持ちが始めたのもこの頃です。元々学びたいという思いはあったのですが、躊躇して一歩踏み出せずにいました。そのような日々を悶々と過ごす中で、ご門徒さんから何か問われても応えることができなかったことが何度もありました。その時、「何も知らないくせに」という言葉がふと脳裏を掠めました。

私は坊守として何をしたらよいのか、私の坊守のお手本は母です。小さいお寺ですが母はとても忙しく、父と共に法務に出たり行事の采配、ご門徒さんとのやり取りや本堂のお給仕、脳梗塞を患った祖母の介護、家事や育児などを担っていました。私もいつかはこういうことをしていくのだなあと漠然と思っていました。現在の私の在り方は母とは異なる坊守の相です。

聴聞する中で私なりに何をすればよいのか手探りで模索し、その中で出遇わせていただいた先生やお仲間のご縁が今の坊守、そして僧侶としての私になっています。そうしてたくさんの方々と出遇うことで「一人」ということが見えてきました。同じように見えて違う、存在

としての一人です。そしてそれは「邪見橋 慢悪衆生」と『正信偈』の中に示される、自分も相手も傷つけるしかない、自分を中心にしている私の姿でした。そのことに気づいた時、連れ合いとの関係性も変化していきました。

人は（私も含め）見下されることが嫌いです。無意識のうちに、時に応じた都合によって自分を上にしてみたり下にしてみたりと、決して平等とは言えない在り方をしています。人の世にある限りそのようなあり方しかできないものが凡夫と表わされ、それが実は虚しいことではないですか、と呼びかけてくださっているのが阿弥陀様です。その声を聞き、決して平等ではない自らの在り方を自覚して確かめ、自分ができることをする姿勢が、共に教えを聞くものの大切な在り方だといいただいております。



イラスト／平野萌



真向かいの親鸞聖人

長浜第二十四組 浄教寺

川那部 龍司



長浜では毎年7月に長浜別院、8月には五村別院で、夏の御文が拝読される夏中さんの時期に合わせて暁天講座が行われます。旧長浜教区には共学研修院が開かれており、共学研修院生が暁天講座の法話を担当することになっています。

昨年まで、私たち第1期生が務めていましたが、今年からは第2期生の方々が担当されています。これまでは話す立場でしたが、今年からは聞く立場として、暁天講座に参加させていただきました。

さて、涼しさも感じられる夏の早朝、暁天講座を聞かせていただいたおり、あることに気づかせていただきました。それは、暁天講座に集った一人ひとりを、親鸞聖人が真正面から見つめておられ

るのです。ご承知の通り、別院の親鸞聖人の絵像は真向かいのお姿です。そのお姿の眼差しは暁天講座に集った方々を温かく見つめておられるようであり、また、暁天講座の法話を一生懸命に話そうとする研修院生に後方から寄り添い、柔らかな眼差しで見守られているようにも感じられました。聖人ならきつとそのようにご覧になっていただろうなと思議とそう感じられます。

親鸞聖人とは、どのようなお方なのでしょう。私の場合、『しんらんさま』という歌を思い出します。仏教讃歌『しんらんさま』は、親鸞聖人七百回大遠忌に作成され、今日でも大切に歌い継がれています。

そよかぜわたる あさのまど
はたらく手のひら あわせつつ
南無阿弥陀仏 となえれば
しんらんさまは にこやかに
わたしのとなりにいらいっしやる

きらめく夜空 星のかげ
あらしにきえても かかれても
南無阿弥陀仏 となえれば
しんらんさまは ともしびを
わたしのゆくてに かざされる

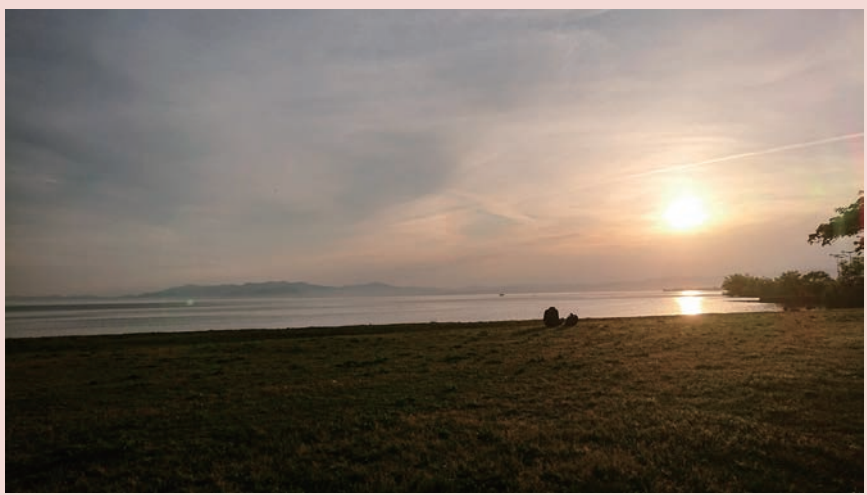
この世の旅の あけくれに
さびしいのちを なげくとき
南無阿弥陀仏 となえれば
しんらんさまは よりそって
わたしの手を取り あゆまれる

大学時代、友達を傷つけてしまい、自分に絶望していた時、この『しんらんさま』の歌詞が目にとまりました。子どもの時から好きな歌でもあったので、思わず口にする、歌詞のあたたかさ、に涙が流れました。

親鸞聖人は、こんな私にも手を差し伸べて、共に歩もうと言っていた。そう思えたとき、身の回りの物一つ一つがいとおいしく感じました。目の前のコップも不思議なご縁で今、私のもとに来てくれて私を生かそうとしてくれている。心臓も今もこうして私を生かそうとしてくれている。私が私に絶望してただけで、私以外のものは私を生かそうと今働きかけてくれている。

孤独に閉ざされた世界観が一変しました。私は一人ではなく南無阿弥陀仏の中に、無量の寿(いのち)の中に、既に包まれていたんだなと。
「お念仏申さんせ。お念仏の中にみんないるんやで。そして、お浄土でまた

出遇えるんやで」
親元に帰る度に母方の祖母が語りかけてくれた言葉が思い出されます。
清々しい暁天講座の空気の中、真向かいの親鸞聖人のお姿から改めてそのことを教えていただいたように感じます。



特集

教区教学研鑽機関 共学研修院

「場の信頼」ということ

長浜第十四組 満立寺 共学研修院長

黒田 進



「共に念仏者たらん」を願いとして、真の朋友との価値を求めて歩みをはじめた共学研修院。三年を二期としたこの学びの場も二期目をむかえております。

研修院生はほとんど兼職で、月二回金曜日の夜七時に職場からかけつけます。

『歎異抄』をテキストに、講義、院生の発表、攻究、座談と、九時過ぎまで濃密な時間をすごします。

年一度の一泊研修、長浜・五村両別院の暁天講座での法話実習で、自身の歩みや研修院での学びを通して気づかされたことなどを聞いていただきます。

こうした学びを通じて強く感ずるのは「場の信頼」ということです。つまり私たち研修院での学



びの背景に、真宗門徒のはるかな歩み、真宗の生活文化、土徳があるのだということ。そうした宗教的精神風土に支えられて、安心して学ばせていただいている「場の信頼」ということを本当にありがたく感じております。

真宗の教えを学びたいという意欲はあっても、一人では中々持続できない私達です。こうした共学の場をいただきたい、お互いの受けとめや感想を聞き合い話し合う中で、新しい気づきや学びのヒントをいただきたい。一人では学べないので、皆さんにこうして集まっていただきました」という先師の言葉がしみじみ思いおこされる次第です。

共学研修院に身を置いて

長浜第十三組 光西寺 共学研修院指導

一色 孝



共学研修院が開講され、早や二期目、四年目になりました。始まった当初はコロナ禍で手探りから進められました。そんな中でも一期生の方々は、真面目に足を運んでくれました。

二期目のテキスト(お聖教に失礼ですが)『歎異抄』を皆さんと一緒に学んでいます。二期生の方々も真面目に出席されます。又、ほとんどの研修院生がお仕事を終えられてから参加されます。その様子を拝見すると、頭の下がる思いです。職場から、あるいは生活全体から、来ずにおれない様々な出遇いが背景にあるのでしょう。

研修院は、講義、皆さんの発表、攻究、座談があります。攻究、座談の時間の初めはなかなか発言がありません。しかし、座談も深まるにつれ、ご自身の受けとめを素直に語っておられます。終わり頃には時間が

足りなくなってきました。その時の皆さんの表情は生き生きと明るくなっておられます。不思議です。お仕事を終わられ、夜七時からの参加はきつと躊躇いがあると思います。何故、来られるのか。それは、きつと、座談でお互いに聞き合う時、我がこととして聞いておられるからでしょう。“深いいのちの声”の共有がえのない場が研修院にあります。その不思議に呼び出されて身を運んでいる私達です。



老少善悪のひとをえらばれず

京都教区長浜特区には比較的小さな寺が多く、私自身もフルタイムの仕事しながら住職を務めています。学生時代に教師の学びをしてから30年、住職になってから10年ほど経ちますが、仕事が忙しく新たな学びを深めることができていませんでした。旧長浜教区で僧侶のための教学研究機関である共学研修院が設置さ

長浜第十三組 真勝寺 受講生

三山岳



れ、コロナ禍での第1期募集は仕事の対応に追われご縁をいただくことができませんでしたでしたが、昨年度おかげさまで第2期募集では研修院生になれました。

第2期では『歎異抄』を中心に講師の先生方や研修院生とともに学びを深めています。研修院生は私同様に寺と仕事の両立をされている方、これまでも学ぶ機

会を得て深めてこられた方、次代の住職

として期待されている方など多様性に富んでいますが、若きもベテランも僧侶として対等な関係で一緒に学べることや、互いに学び合う環境があることに大きな意義を感じています。「弥陀の本願には老少

善悪のひとをえらばれず。ただ信心を要

とすとしるべし」(歎異抄・第1章)という言葉を胸に、親鸞聖人が語られた「御物語の趣」を講師の先生・研修院生とともに確かめ合っていることに喜びながら、今後も学びたいと思っています。

語り合い、思いを聞く場

長浜第二十一組 真願寺 受講生

伊藤 真希



私は、(当時)長浜教区共学研修院第一期生として、二〇二〇年十二月から二〇二三年九月まで、十名の研修院生と

思います。時には熱い語り合いや、自分の不甲斐なさに戸惑うこともありましたが、黒田先生の「こは信頼の場である」というお言葉に、安心して胸の内を語る

「共に念仏者たらん」の開催趣旨のもと、「宗祖親鸞聖人」をテキストとし、親鸞聖人のご生涯を通して我が身を見つめていくという学びの場をいただきました。

ことができたとおもっています。年一回、三年間で計三回の夏中での法話実習はとても緊張しましたが、「教えを我が身に引き当てる」また「みなさまにおたずねするように」と黒田先生に教えていただいたことを忘れずに、自分自身を見つめながら話すということを心がけました。

毎月、黒田先生の公開講座での講義と二回のゼミ、そして毎年七月に長浜別院、八月に五村別院で行われる、夏中での暁天講座の法話実習に向けての演習というのが、共学研修院のカリキュラムでした。

ちょうどコロナの真っ只中の期間で、研修院生同士が打ち解けることに少し時間がかかりましたが、今では有志で輪読会をするなど、とても素晴らしい仲間たちと出会えたことを嬉しく思っています。

ゼミは、研修院生、先生方、事務局の方との語り合いの場であり、それぞれの思いを聞く場でありました。親鸞聖人を通して自分も、そしてみなさんのお姿が窺われる大変貴重な時間をいただいたと

思っています。今では有志で輪読会をするなど、とても素晴らしい仲間たちと出会えたことを嬉しく思っています。



赤野井別院
夏の御文

近江第二十六組徳乗寺 比叡谷紗誓



これまで八月初旬に行われてきたこの法要は、旧京都教区内では数少ない、『夏の御文』が拝読される仏事です。そもそも、普通寺院に夏の御文はあまり無いですから、聞く機会は尚の事少ないでしょう。私の所属寺は、赤野井別院そうきょうから、京都教区准堂衆会の賛助会員として別院の外陣げいじんに出仕させてもらうご

縁を頂きました。普通寺院に内陣出仕者として参勤するのは違い、他の僧侶方から、莊嚴しょうげんの掬くえを学び、外陣方かきりやくや掛役かきやくとしての動きを倣い、声明を現場で聞き、声を合わせる経験をさせて頂ける、有り難い場に幾度もお出遇いさせて頂きました。

歴史ある建物を支えるのも大変でしょう、近年は台風被害に遭ったこともあり

ます。そんな中でも、老若男女、皆が参詣・参勤しやすいようにと意識して、トイレ整備をされたり、椅子を整えたりもされています。教如上人の墓地も修繕されました。ご門徒のお支えも勿論ですが、暑い中でもきちつと衣えたい体を着けて参勤される法ほつちゆう中方がおられ、

うことを感じます。四月の教如忌と十月の報恩講と共に、別院の季節が巡っています。

ひとひと
男と女の平等って、なに？

住職になって三年になるが、その間、仏壇ぶつだん仕舞いをされたり月参りを断つてこられたりが何軒かあった。ある時ご門徒から仏壇仕舞いを今後考えているので、その時はお願いしますと言われた。お話しをお聞きしながら、せつかくの機会だと思い、以前から気になっていたので聞いてみた。「いつも一緒にお参りしてくれはるのは奥さんですけど、ご

出版部会 仲野恵理子

主人はどうされているんですか。お仕事で毎月は難しくても年に一回くらいはお仕事がお休みの日に一緒にお参りできませんか？ご主人のご両親が残されたお仏壇でもありますし、やっぱり奥さんばかりじゃなくご主人もお参りして欲しいです」と申し上げた。話はそれでおわってしまったが、言ってスッキリしたというよりは余計なことを言ってしまったか

な、と気分が落ちこんでしまった。翌月、いつも通りそのお宅へ月参りに伺うと、ご主人が出迎えて下さった。ほぼ初対面だったので、改めてごあいさつをし、お参りの後も世間話など長話になってしまった。私はとても嬉しい気持ちでお宅を後にした。その後は奥さんだったり、ご主人だったり、お互いの時間の都合を話し合われているのだろうと感じた。

一月の新年のお参りはお二人そろって、お盆はお孫さんと三人でお参りさ

れていた。これまでの二年間一度もなかった事だった。

以前、ご高齢の方から「ここに嫁いできて、仏壇のお守りさせてもらって本当にありがたいと思ってます」と言われたことがあった。いろんな思いがごみ上げてくるが、ご本尊の前で手を合わせることを誰か一人に任せていいものではないと思う。みんなで勤めすることの大切さをしっかり伝えられる僧侶になれるよう、私自身勉強の日々だ。

得度受式者

二〇二四年十月八日

- ・近江第五組敬應寺 近藤太輔
- ・出雲組正源寺 砂忠功

住職任命者

二〇二四年九月二十八日付

- ・長浜第二十二組佛心寺 新田崇信
- ・近江第三組永願寺 竹村徳史
- ・但馬組安樂寺 中川正見
- ・出雲組聞善寺 多賀大樹

敬弔

ご生前のご功労を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

- ・長浜第十二組善仁寺 前坊守 後藤廣子 九十二歳

二〇二四年九月三日

- ・長浜第十八組蓮臺寺 前坊守 鎌足ゆき子 九十六歳

二〇二四年九月十八日

- ・長浜第二十一組願教寺 前坊守 千田朋美 八十四歳

二〇二四年九月二日

- ・近江第七組西願寺 住職 伊原眞仁 八十九歳

二〇二四年九月二十九日

- ・近江第二十五組本照寺 前坊守 三浦 文子 九十八歳

二〇二四年九月十一日

〔寺院教会番号順敬称略〕

二〇二四年度教区会（臨時会）報告

教区改編に伴い、新たな教区会の体制が整ったことを受けて、去る十月七日に教区会（臨時会）が開催されました。

各教区の選出教区会議員の定数は、宗派の条例である「教区制」によって教区内の寺院・教会の数に応じて規定されています。新たな京都教区は寺院・教会数が千カ寺を超えることから、教区会議員の人数が非常に多くなります。そうした状況において、円滑な教区会の運営に資するため、五〃六月に行われた宗会（宗派の議会）により特別措置条例が制定され、京都教区の選出教区会議員の定数を教区会の議決によって定めることができることとなりました。この特別措置条例の規定に基づき、年度当初の七月の教区会（通常会）において、選出教区会議員の定数を十三人とすることが可決されました。それを受けて、九月二十九日に選出教区会議員選挙が施行され、十三人の当選人が決定しました。以上の経緯により、選出教区会議員に各組の組長四十三人を加えた計五十六人の議員によって新教区の議会体制が構成されることとなったものです。

そして、このたび開催された教区会（臨時会）において、改めて正副教区会議長、参事会員・補充員の互選を行いました。その結果、左記のとおり選出されましたので報告します。

【議長】

深尾 浄信（近江第七組浄敬寺）

【副議長】

藤谷 秀樹（長浜第二十二組慈榮寺）

【参事会員】

福井 恵（長浜第十三組見瑞寺）

千田 洋文（長浜第十七組念相寺）

亀田 晃巖（山城第二組唯明寺）

北脇 光昭（近江第四組圓光寺）

中島 正泰（丹波第三組本光寺）

春日 正信（出雲組光明寺）

前田 賢龍（石西組専龍寺）

【補充員】

山田 孝夫（長浜第二十一組禮信寺）

三原 隆応（若狭第一組妙應寺）

京都教務所・長浜教務支所 人事異動

【二〇二四年十月一日付】

・今津 真人（いまづまひと）

長浜教務支所主事から京都教務所

主事に任命します。

・松原 達（しょうひとおる）

研修部主事から長浜教務支所主事

に任命します。

依頼「令和六年能登半島地震」

災害に対する救援金の勧募について

去る一月一日「令和六年能登半島地震」が発生し、能登地方を中心に広域にわたり未曾有の被害をもたらしました。このたびの地震の影響を受けた北陸の地は真宗門徒の多い地域で、とりわけ震源地である能登地方は、近年、度重なる地震により何度も苦しい思いをされてきました。

そのような中で、このたびの巨大地震の発生により、多くの寺院・ご門徒が甚大な被害を受け、大変深い悲しみと不安の日々を過ごされております。

つきましては、何卒ご理解を賜り、有縁の方々にもお声がけいただき、可能な限り救援金をお取り纏めの上、同封の郵便払込用紙にて送金くださいますようお願い申し上げます。

また、このたびの被害状況から、京都教区としての救援金支援は、複数年度間に亘る必要があると考えております。今後の継続支援としての勧募は情勢を検討しながら改めてお願い致しますので、引き続きご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

京都教区救援金総額

二〇二四年十月十八日 現在

2,097,785,221円

京都教区 11月の教区事業

13日(月)	9:30~15:30	坊守会 基礎講座 (Zoom 併用)	教区会館 2階 大講堂
21日(木)	16:30~19:30	常磐会館報恩講 法話 藤原千佳子 師 (近江組 浄秀寺)	教区会館 2階 大講堂
29日(金)	19:00~21:00	月例部落差別問題学習会	大谷会館 講堂(長浜別院)

京都教区 11月の教区諸会議

7日(木)	13:30~16:30	教化本部 企画室 会議	教区会館 2階 大講堂
22日(金)	13:30~16:30	教化本部 出版部会 編集会議	Web 会議 (Zoom)

京都教区別院 11月の行事予定

5日(火)	14:00~16:00	赤野井 定例法要 法話 中川眞 師 (別院輪番)	赤野井別院
5日(火)	14:00~16:00	伏見 報恩講 法話 村上宗博 師 (山城第1組 願教寺)	伏見別院
6日(水)	14:00~16:00	大津 同朋の会 法話 藤川秀行 師 (近江組 託仁寺)	大津別院
6日(水)	14:00~16:00	伏見 声明作法講座 法話 浅井誠 師 (山城第3組 皆演寺)	伏見別院
10日(日)	14:00~18:00	伏見 同朋会報恩講 (法話者未定)	伏見別院
13日(水)	10:00~11:30	山科 婦人会報恩講 法話 宮戸弘 師 (別院輪番・京都教務所長)	山科別院
13日(水)	10:00~11:30	岡崎 三日講「味読正信偈」 法話 福田大師 (別院輪番)	岡崎別院
14日(木)	14:00~16:00	大津 親鸞講座 法話 仁科洸 師 (山城第2組 長徳寺)・沙加戸弘 師 (大谷大学)	大津別院
15日(金)	14:00~16:00	山科 定例法話 法話 長嶋明子 師 (近江組 願證寺)	山科別院
18日(月)	19:00~21:00	伏見 親鸞教室報恩講 法話 藤原正寿 師 (大谷大学准教授)	伏見別院

教務所・教務支所閉所のお知らせ

11月1日(金) ※所員ミーティングのため教務所・教務支所を閉所いたします。

京都教区 公式SNSあります

公式SNSで更新情報や、右記「今月のことば」についてのひとことメッセージなど配信しています。下記QRコードからご登録よろしくお願ひします!



LINE公式アカウント 現在、登録者数80名。ぜひ、ご登録お願ひいたします!



「編集後記」
 机の奥から、古びた一枚の葉書が出てきた。「いかがお過ごしでしょうか。私は〇〇大に進学が決定し、遅咲きながら桜が咲きました…」目の前にぱっと、明るい笑顔が浮かぶ。勤めていた学校の生徒会や演劇部で活躍した、彼女の訃報が届いたのは、この葉書をもって間もない頃だった。
 「花びらは散つても花は散らない。形は減りても人は死なぬ」
 また数年後、ここで遇おう…今年もまもなく御正忌を迎える。
 (出版部会 高田まさき)



教区だより表紙写真大募集!!
 本誌表紙写真を大募集いたします! テーマは宗祖親鸞聖人御誕生八五〇年・立教開宗八〇〇年慶讃法要テーマ「南無阿弥陀仏人と生まれたことの意味をたずねていこう」です。ご応募は、京都教務所(担当:赤松)までお待ちしております!

【表紙の写真】「住蓮山 安楽寺」(小山大来 山城第2組 圓重寺)

